

障がい福祉マネジメントへの WHO-DAS2.0 の 適応成果と課題

～障がいのある方への適切な支援と職員の働きがいへの貢献～

社会科学部 経営専門職専攻¹ 経営学研究科 経営学専攻²

〇教授 きのした たかし¹、D3 まつもと しょうはち²
木下 隆志¹、松本 将八²

キーワード

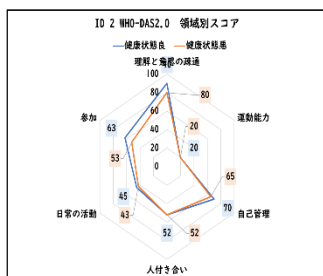
アセスメント、障がい福祉、働きがい、共生社会



研究概要

日本の障がい福祉サービスでは需要・供給ともに急増しており、サービスの質を高めるために WHO（世界保健機構）が採択した ICF（国際生活機能分類）の概念が広く導入されている。しかし ICF 単独では実用性に乏しいため、WHO は障がい評価ツールとして WHODAS 2.0 が開発した。これにより、①障がいの状態を「見える化」し、②利用者の強み・課題を職員間で共有しやすくし、③具体化された個別支援計画の目標設定や適切な支援内容により目標達成が容易になり、④さらに適切なサービス形態の選択が出来る、⑤また職員の働きがいも向上させる、といった効果が得られている。結果として、利用者は自立や適切なケアを受け、地域で暮らし続ける「共生社会」の実現が期待されている。ただし、WHODAS 2.0 の運用マニュアルや研修体制を整備し、理解を深める仕組みづくりが課題である。

障がいの見える化



WHODAS2.0 アセスメント項目

WHO-DAS2.0 6領域 36項目	
領域1 理解と意思の疎通	D1.1 15分程度かを行うことに集中する D1.2 簡単な作業を行うことを見通す D1.3 日常生活上において問題の解決方法を発見する D1.4 新しい課題を学ぶ（例えば、新しい場所への行き方を学ぶ） D1.5 人や物についていることが別々を普通理解する D1.6 言葉を聞いて、理解できるか D1.7 30分程度の長い時間たっているか D1.8 理解した状態から立ち上がりますか D1.9 あなたの部屋の中で移動しますか D1.10 歩みを進める
領域2 運動能力	D2.1 歩みを進める D2.2 歩みを進める D2.3 歩みを進める D2.4 歩みを進める D2.5 歩みを進める
領域3 自己管理	D3.1 全身を洗う D3.2 自分で服を着る D3.3 食事をする D3.4 歯を磨く D3.5 歯を磨く
領域4 人付き合い	D4.1 知らない人とのやり取り D4.2 友人関係を維持する D4.3 知らない人と交流する D4.4 知らない人と交流する D4.5 知らない人と交流する
領域5 日常の活動	D5.1 自分で受け持つ家事を行う D5.2 今、あなたにとって最も重要な家事をうまくやっていますか D5.3 あなたに必要なすべての家事を済ませることは出来ますか D5.4 必要に応じて出来るだけ早く家事を済ませることが出来ますか D5.5 仕事または学校での日々の活動を行う D5.6 あなたにとって、最も重要な仕事または学校の課題を済ませましたか D5.7 あなたに必要な仕事または学校でのすべての仕事を済ませましたか D5.8 必要に応じて、行方不明な仕事や学校で済ませるべき仕事を済ませましたか
領域6 社会参加	D6.1 他の人と同じ方法で地域の活動に参加することに、どれだけ関心がありましたか D6.2 あなたの身の回りに生じた障害（バリア）、妨げによって、どれだけ問題を抱えましたか D6.3 他人の態度と行為によって、あなたの意識が傷つけられたことが、どれだけありましたか D6.4 健康状態またはその改善のために、どれだけ時間を費やしましたか D6.5 あなたの健康状態によって、どれくらい生活に制限を受けましたか D6.6 あなたの健康状態は、あなたやあなたの家族にどれくらい経済的な損失をもたらしましたか D6.7 あなたの健康上の問題によって、家族がどれくらい問題を抱えましたか D6.8 自分で、リラックスや楽しみをしようとしたときに、どれだけ問題を抱えましたか

WHODAS2.0 を取り 入れた個別支援計画

個別支援計画	
計画の概要	・ 11月15日～16日、その後、12月1日～2日に2回実施。 ・ 精神疾患の統合失調症を患っており、グループホームに入ると同時に同法人内の就労継続支援も利用。 ・ 工場を修繕したい希望があり、仕事の難易度が低く、工賃の高い事業所に移る。 ・ 時々お金のない事がストレスとなり、人のお金に手付けたりしてしまうことが過去にあった。 ・ 母親も本人と距離を置きたいとおっしゃられる時もあるが、母親の気分次第で本人さんが振り回されることもある。 ・ 仕事はまじめで努力もある。たばこを吸うとストレスが軽減されるとのこと1回1箱吸う。 WHO-DAS2.0の評価のまとめ ・ 前より健康状態に関心するよう改善している。同じスコアの領域は、自己管理、人付き合い、日常活動である。 ・ 健康状態が良い時は、同じスコアが改善しているが健康状態が悪い時は、意思疎通、運動能力、参加でスコアが悪化している。 ・ 背景には、コロナ禍での給付金の使用による気持ちの浮き沈みがあり、気持ちの沈み込んだ時の引きこもり傾向によるものと推察する。 WHO-DAS2.0評価に基づいて検討した支援内容 ・ お金の使い方を教える計画にすることが必要である。 ・ 改善できている領域もあるため、伸ばせることは伸ばし、スコアが悪化している原因の対策を本人さんと共に検討し、支援内容を考えていくことが求められる。
個別支援計画	長期目標 ・ 工場をたたくさんへ入る仕事に挑戦する 短期目標 ・ 工場について学ぶ 個別支援計画とWHO-DAS2.0の観点 長期目標 ・ D5.6の健康状態の良い時のスコアを3点から2点にする。事業所内での仕事や活動を半分以上おこなうことができる状態になると、仕事の幅も広がって工場も上がる。 短期目標 ・ D3.1の健康状態の良い時のスコアを3点から2点にする。自分を変える。健康状態（精神面）が悪い時は入浴が出来ないときがあり、健康状態（精神面）に関わり入浴が出来ない状態を目指す。 職員別の具体的な支援内容 職員A ・ 今の職員とも連携する中核を担い、抱えている悩みや家庭環境など、職員間でも情報共有し、職員間の情報に限りがないよう調整する。 1～12か月 ・ 必要時には行政など、他機関にも相談を行う。 職員B ・ 週に1回30分程度、面談を行い、精神状態、仕事への意欲、生活面や金銭面など、状態を聞きながら助言や支援の修正など柔軟に対応していく。 1～12か月

アピール ポイント

厚生労働省 ICF シンポジウム（第8回、第9回）にて WHODAS2.0 の障がい福祉サービスのスクリーニングと使用項目の課題をポスター発表・口頭発表済。Japanese Consortium for General Medicine Teachers Vol.18,23-31.掲載済。障がいの見える化は支援のアウトカムも可能になり、サービスの質の向上や障がい者の目標達成は職員の働きがいも高め、障がい福祉サービスの持続可能性に寄与する。

【参考文献】：

- 1) 松本将八 2022 「WHO-DAS2.0 を活用した障害福祉分野におけるサービスマネジメント手法の検討ー障害福祉サービス利用者のケーススタディを通してー」商大ビジネスレビュー第12巻第2号 154-177.
- 2) WHO 2012 『Measuring Health and Disability Manual for WHO Disability』